

石津川(百済川)・流下仔アユ調査等の結果と考察 (H24.12)

船本浩路・前田勝彦

<経過>

私たちは、3年前の春に石津川で初めて稚アユを確認した。それ以来、毎年、稚アユの遡上を確認している^{1,2}。一方、秋季に実施している流下仔魚調査³ではいずれの年も仔アユの確認はできていない。今年は、この2つの調査の他に産卵を促進させるために産卵場所の改善やそこでの産卵の有無を確認する調査を実施したので、その結果を下記に示す。

<今年度の調査結果>

●成魚アユ確認調査 実施日は9月29日。

①剣先(河口から2.2kmの地点)

産卵に適すると思われる瀬(海水が混ざらない最下流の瀬)の周辺で投網や目視により調べたが確認できなかった。なお、昨年秋の調査でも確認できていない。

②まるとく市場前(河口から3.7km付近)

昨年、この時期に生息を確認(全長19cmのものを2個体)した場所であるが、今回は全長14~15cmのアユを2個体確認した。外観からは両個体とも十分に成熟しているように見えなかった。

●産卵床の改善 実施日は10月13日。

剣先の直ぐ上流にある瀬で、産卵を促進するために河床の礫をショベルで攪拌し、礫に付着しているヘドロ等を除去した。(右の写真参考)

●産卵確認調査 実施日は10月21日

と11月3日の2回。上記の瀬で浮石の表面や側面をチェックしたが卵を見つけることは出来なかった。

●流下仔魚確認調査 実施日は11月

7日と11月16日の2回。午後7時30分~10時30分に昨年と同様の方法で調査したが仔アユを確認することはできなかった。



流下仔アユ例(写真はエコプランの白水氏提供)



<流下仔アユの確認調査方法>

今回も補虫ネットを使った簡易的な方法で行った。アユの仔魚は日没後から

夜明け前にかけて流下する習性があるため、その間を通して実施するのがベターであるが、今回は流下の可能性が特に高いと思われる時間帯に限って行った。なお、調査は、百済川・剣先の小堰堤（ヨシ原再生場所付近）で行った。（右の写真参考）



<考察&課題>

調査3年目の今年も流下仔魚を確認することはできなかった。例年、遡上数は非常に少なく、さらに夏季を過ぎると個体数が一段と少なくなる傾向がある。このことから仔アユが流下したとしても非常に少数だと推測される。そのため我々の調査精度では確認できなかったのかも知れない。しかし、一方で再生産がされていない可能性も高く、遡上している稚アユは石津川周辺の河川（大和川、淀川）で産卵・孵化したものかも知れない。

ところで、百済川は流路長が短く流量も少なく、アユの生息には適した川とは言えないが、同規模の川でも再生産されている事例がある。世代を交代させるためには何が不足しているのか、これらの事例を参考にしながら引き続き検討を進めたい。健全な川を取り戻すためにはアユの世代交代が可能となるような河川整備が重要なことから……。

<参考資料>

1. [アユをシンボルとした市民活動グループによる都市小河川の環境改善の取組](#)（H23. 10 船本浩路、前田勝彦、盛田正敏）H23. 11. 12 日本下水文化研究会 発表資料
2. [平成23年石津川魚類調査報告書](#)（H23. 12 株式会社ジオ生物環境・市民ボランティアネットワーク「石津川に鮎を」）
3. [石津川・流下仔アユ調査結果の考察](#)（H23. 12 船本浩路、前田勝彦）